

子どもってどんな存在なの！？

—まこと保育園ではこう考えています—

子どもは教えられて育つのではなく

自分の体験を通して自分で育つ力を

生命(神さま)から授かっています。

ひとりとして同じ子どもはなく、

神さまから違った賜物を授かっている子どもたち。

自分がたったひとりの「かけがえのない自分であること」と、

誰もがたったひとりの「かけがえのないその人であること」を知って、

たったひとつの人生を喜んで、幸せに歩んでほしいから。

その土台づくりのお手伝いをしたいと思います。

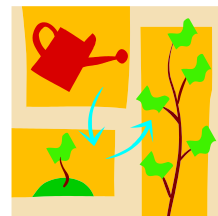


男女の間にまさに神さまから授かる『生命(いのち)』。

こうして生命を与えられて赤ちゃんは生まれてきました！この自然から与えられた『生命』には、生まれてから死ぬまでの発達のプログラムがすでに組み込まれています。そのプログラムは、ひとりひとり速さもやり方も違うけれど、たった一つの衝動にしたがってすすむように自然の力で計画されています。

その衝動とは、『自立を求める(育つ)』こと。自立は、依存と反対の状態、自分の行動や自分の精神状態を自分で決め自分で支える、つまり自分の幸せは自分で決めること、言い換えれば自由であることです。

そしてその自立した人間同士が心通わせ寄り添い合えることは成熟した真の幸せであり、人生の醍醐味。そしてそれを求めるのが人の究極でしょう。人間は、生まれた瞬間からそれぞれのライフステージ(乳児期・幼児期・児童期・思春期・青年期・成熟期・老年期)の発達の特徴に合わせて成長の形を変えながら、その段階が求める「自立」を追い続けるもの、そして深まりながら生涯成長しつづける存在としてプログラムされています。そしてどの『生命』にも、それだけのパワーがちゃんと湧き出てくるように備えられているのです。



では乳幼児期の段階の子ども達が求める「自立」への発達課題は何でしょうか。愛する「この子」のために、私たち親や保育者は何をしてあげられるのでしょうか。

乳児期の子どもたちの自然からの宿題は、まずは『自分』の存在そのものに安心し信頼すること。

そして周囲の大人が温かく受け入れ見守ってくれることで、自分の目の前にある未知のもの・未知のことにぶつかっていこう！と好奇心や意欲が沸いてきます。どんなことも「やってみよう！」と無意識に一歩を踏み出すことのできる前向きなところ…それが「自己信頼」であり、この乳幼児期に育む大切な大切な基礎というべきものです。この自己信頼に支えられ日常生活の中で出会うできごとに果敢にぶつかりながら、つまずいても何度でも起き上がりへこたれずに乗り越えていく中で自分の『やり方』を身につけていきます。それは「三子の魂百まで」といわれるように、その後も続く自分の人生において、様々な場面でその問題をどうとらえ、どう取組み、どう乗り越えていくかという時の自分の『やり方』として影響を与え続けるもの。大げさなようですが子どもたちは…いえ、赤ちゃんたちは「その人の生き方の姿勢」を、この乳幼児期に身につけようとしているのです。

どうやって？…それは自分で実際にやってみること(体験)。

教えられるものではなく、やらせられるものでもなく、「やる気になって」やってみてそこから自分で学びとっていくものです。ですから、まこと保育園では自分でやってみる体験をととても大切に、意欲と好奇心をもって活動する(遊ぶ)子ども達を見守り、その子らしく学びとって欲しいと願っています。

『その子らしく』!・・・ともすると「先生」の好みや「親」の理想に翻弄されてしまう危険性のある「その子らしさ」をしっかり受けとめてあげられる視点をみがきたいと、私達保育者も、子どもと共に学んでいきたいと思っています。日々お忙しいお父さまも、お母さまも、お子さんの健やかな成長のために、ご一緒に支えあってまいりましょう。

